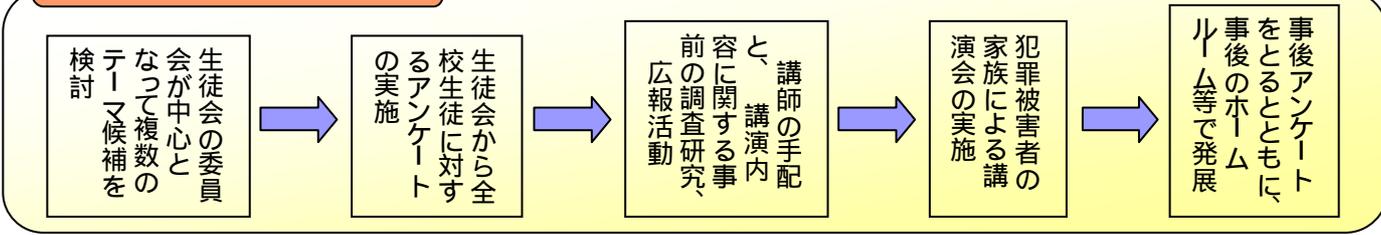


事例16「犯罪被害者遺族を外部講師に招き、講演会を行った取組」(高等学校)

取組のポイント

・犯罪被害者の家族(NPO法人「犯罪被害者支援の会」)からの講演を通じて、生徒が、命の大切さ、暴力のない社会の必要性及び犯罪被害者等の人権などを学ぶねらい。この講演会は、生徒が主体となって企画・運営を行っており、広く社会問題を、生徒と教員が一緒になって学びながら、一人一人の人間を大切にすることを探求する学習の一環として実施している。

実践活動の流れ・発展



教育課程上の位置付け

ホームルームの時間を活用して、日ごろから指導を実施。
 「犯罪被害者の家族による講演会」は、特別活動の時間(学校行事の一環)として実施(生徒は全員参加)。

実施までの経緯



事前の取組



犯罪被害者による講演会の開催

生徒に対して「少年犯罪」に関する事前の意識調査アンケートを実施

- ・友人が飲酒・喫煙をしていたら止める人 1年生:50%、2年生:57%、3年生73%(全体で57%)
- ・友人が万引きをしていたら止める人 1年生:66%、2年生:57%、3年生82%(全体で66%)
- ・友人が置いてある自転車を無断で乗っていくのを止める人 1年生:57%、2年生:49%、3年生63%(全体で55%)



NPO法人「犯罪被害者支援の会 Appui」による講演【生徒全体】

NPO法人「犯罪被害者支援の会「Appui(アピュイ)」とは:【<http://www.npo-appui.com/>】

- ・2004年4月に内閣府から認証されたNPO法人で、「アピュイ」はフランス語で「支援・援助」を意味する。
- ・犯罪被害者やその家族に対して心のケア等を行うとともに、一般の人々に対して犯罪被害者とその家族の置かれている立場や心情及び命の尊さ等を訴えることを通じて、犯罪被害者とその家族の権利の確立・擁護、平和の推進、医療・福祉・青少年の健全育成等に寄与することを目的としている。
- ・このため、少年院、地方公共団体又は学校等において講演活動等を実施。



【参考】民間被害者支援団体(全国被害者支援ネットワーク): <http://www.npa.go.jp/victimassistance/index.htm>

「Appui」による講演内容(一部抜粋)

- ・犯罪(講演では、理不尽な集団暴行等で家族の命を奪われた実例の話があった)は、犯罪被害者はもちろんその家族にも大きなダメージを与える。生きていても生きていくことができなかつた家族の事を考えれば、皆さんには、一度しかない人生を、生きていることに感謝しながら生きてほしいし、自分自身や周囲の人々を大切にしながら過ごしてほしい。
- ・犯罪の危険を身近に感じながら、犯罪を未然に防止して、誰も傷つけられない誰からも傷つけない安心して生活できる安全で平和な社会を築いていく必要がある。



生徒全体に対して事後のアンケートの実施

- アンケート結果(生徒の声):
(約92%の生徒が良かったと評価。以下はその一例。)
- ・「一人一人が命の大切さをもっと理解して、罪に対する意識を少しでも強く持つことが大切だと思う。」
 - ・「『犯罪』を身近に感じる事ができ、その重大さに気付かされた。」
 - ・「人と関わりながら生きていく上では、人の事を考えながら生きていくことが絶対的な義務だと思った。」など。

次年度以降の実施に役立てる。

事後の取組



生徒会の実行委員会から、生徒全体に対して事後アンケートを実施 講演の成果について、来年度以降の取組みに役立てる。

学校では、教科学習等(『現代社会』の課題レポート等)とも関連させながら、年間計画の中で系統性を持たせながら、諸教育活動を実施。

本事例の活用により期待される成果及び活用上の留意点

成果

- ・犯罪被害者の家族からの講演を通じて、命の大切さや規範意識の重要性、犯罪被害者の人権等に関する生徒の意識が向上した。
- ・生徒が主体的に企画・運営し、自主的に参加することで、生徒の自主性がさらに向上した。

実施上の留意点や課題

- ・企画・運営を行う生徒だけでなく、その他の生徒の参加意識をどう高めるかが重要な課題となっている。
- ・参加意識を高めるために、これまで 事前アンケートにより生徒自身の関心を見定め、少年犯罪に関する生徒の意識調査や事前の調査研究を実施し、ビデオ上映会等を通じて広報してきたが、それ以外にもHRでの事前学習との連携の充実を図る必要がある。

